

学校名： 飯塚市立飯塚第一中学校

授業者： 松尾 光理

1. 単元名「 Chapter3 Project 尊敬する人についてスピーチをしよう 」 2 / 6時間

2. 授業のねらい

本単元は、「大切な人や尊敬する人について、まとまった文章が書けるようになる」ことをねらいとしている。新出文法としては、現在分詞や過去分詞の後置修飾、関係代名詞が取り上げられており、「あそこに立っている男の人」、「英語で書かれた手紙」などの表現を身に付けさせたい。また、これらの文法事項は、ある事柄をより詳しく説明することができる表現なので、最終目標である尊敬する人についてのスピーチ原稿を作成する上で役立つ表現になる。指導にあたっては、教科書の本文の内容がスピーチ調になっていることを利用して、新出文法がスピーチの中でどのような役割を果たしているのかということや、スピーチの構成などに着目させながら学習を進めていく。

本時では、スピーチ原稿をよりよいものにするために、3種類の聞き手を惹きつける工夫についてエキスパートグループで分析する。次時のジグソー活動やクロストーク活動で、3種類の工夫を取り入れ、スピーチのモデル文をより聞き手を惹きつけるものに作り変えていく。これらの活動を体験することで、自分自身のスピーチ原稿を、聞き手を惹きつける工夫を取り入れながら推敲し、よりよいスピーチができるようになることを目指す。

本学級の生徒は、アンケートの結果から、「英語で話すこと」を最も苦手としていることが分かる。話す力は、今後更に必要性が上がっていくものであるため、予め準備をして話し合いに臨むことに慣れ、「英語で話す」ことへの抵抗を少しでも減らしていきたい。

【本時の主眼】

スピーチのモデル文を分析することで、より聞き手を惹きつけるスピーチ原稿の作成の仕方について理解し、説明することができる。

3. 単元計画 ⇒ 別紙、単元シートで提案。

4. 上記の一連の学習で目指すゴール

- ・現在分詞や過去分詞の後置修飾、関係代名詞の意味や仕組みを理解することができる。
- ・協調学習で学んだ工夫を生かして、自分の原稿にどのようにそれらを加えていけばよいのかを考えながら推敲し、聞き手を惹きつけるようなスピーチ原稿を作成することができる。
- ・原稿を暗記し、聞き手を惹きつける話し方でスピーチ発表をすることができる。

5. 生徒の既有知識、学習の予想

過去形や接続詞 **when** などの既習の文法事項や、新出文法の分詞や関係代名詞を用いて、尊敬する人についての文章を書くことができると思われる。しかし、教科書のモデル文と全く同じ構成になったり、淡々とその人物を紹介する文章になったりすることが予想される。自分の力だけで聞き手を惹きつける工夫に気付き、それらを取り入れたスピーチ原稿を完成させることのできる生徒は少ないと思われる。

6. 期待する解の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるとき、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準）

<スピーチ文の完成例>

Hello, everyone!

Do you know the woman who is called the pop princess, in Japanese, "uta-hime"?

Yes! It's Amuro Namie.

She sings many songs that touch people in the world.

She has three faces. What are those?

She is a singer, dancer and mother. She had a baby but she didn't give up singing.

This fall, she retired as a singer. Her fans were so sad.

So, 800,000 people came to her last concert. 800,000 people! Can you imagine? ...

<評価基準>

A	B	C
各エキスパートグループで、聞き手を惹きつける工夫を理解し、モデル文の中の工夫を指摘することを通して、なぜその工夫が聞き手を惹きつけるのかを英語で説明することができる。	各エキスパートグループで、聞き手を惹きつける工夫を理解し、モデル文の中の工夫を具体的に説明することができる。	各エキスパートグループで、聞き手を惹きつける工夫を理解しようとしているが、具体的な説明ができない。

7. 学習のデザイン

時間	学習活動	支援等
本時 2分	1 英語であいさつを行う。	○英語学習への雰囲気をもつために、英語であいさつを行う。
導入 10分	2 前時の振り返りと本時の課題導入 ・スピーチコンテストの優秀賞獲得スピーチの動画を見る。	○自分のスピーチへの動機づけをさせるために、中学生のスピーチを見せる。 ○動画を見るときは、本時の活動にスムーズに移させることができるようにするために、内容に焦点を当て、どのような工夫があるかを見させる。
<p><Today's goal> How can we make a speech that keeps attention of the listeners? (どうすれば聞き手を惹きつけるスピーチをつくることができるか考えよう)</p>		
	3 自分のスピーチ原稿と比較する。 ・モデルの動画はなぜ聞き手を惹きつけたのかを考える。	○聞き手を惹きつけるスピーチとは何なのかを考えさせるために、動画を見て気付いたことを発表させる。

<p>展開 35分</p> <p>終末 3分</p>	<p>4 エキスパート活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート A 「Impactful Introduction: 導入の工夫」 スピーチの導入部分を工夫し、聞き手を惹きつけるスピーチ原稿にしよう。 ・エキスパート B 「Interaction with audience : 聞き手に問いかける工夫」 スピーチ中に聞き手への問いかけを入れることで、聞き手を惹きつけるスピーチ原稿にしよう。 ・エキスパート C 「Repetition : 繰り返しの工夫」 強調したいことを繰り返すことで強い印象を与え、聞き手を惹きつけるスピーチ原稿にしよう。 ・エキスパート資料を読み、スピーチの工夫を理解し、次時のジグソー活動で、各エキスパートの工夫を説明できるように準備する。 <p>5 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○エキスパート A・B については類似点もあるが、エキスパート A に関しては、問いかけを導入部分に持つてくることで聞き手を惹きつけるスピーチになるということに気付かせる。 ○エキスパート B に関しては、導入だけでなく、途中途中に問いかけを入れることで、終始聞き手に内容を考えてもらいながらスピーチをすることができるということに気付かせる。 ○エキスパート C に関しては、協調するための繰り返し、という点以外にも、どのような語句を強調すれば聞き手をより惹きつけられるのかという点を考えさせる。 ○英語の音やリズムからもヒントを得ることができるようにするために、エキスパート資料の英文を声に出して読ませる。 ○目的を持って準備をさせるために、次時の活動について説明する。 ○相談しながら工夫を伝える準備ができるようにするために、準備中もグループを解かないでおく。 ○単元シートを用いて、次時のジグソー・クロストーク活動の準備を整えておくように伝える。
<p>次時 2分</p> <p>導入 3分</p>	<p>1 英語であいさつを行う。</p> <p>2 前時の振り返りと本時の課題提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各エキスパートの工夫を伝える準備の確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><Today's goal> How can we make a speech that keeps attention of the listeners? (どうすれば聞き手を惹きつけるスピーチをつくることができるか考えよう)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ジグソーグループの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語学習への雰囲気高めるために、英語であいさつを行う。 ○スムーズにジグソー学習に臨ませるために、各エキスパートの内容を改めて見直させる。

展開 20分	3 ジグソー活動 ・エキスパート活動で気付いた工夫を説明し、共有する。 ・与えられた人物についてのスピーチ文を、各エキスパートの工夫を用いて修正し、より「聞き手を惹きつける」スピーチ原稿を書く。	○聞き手を意識させるために、できるだけ準備したものを見ずに説明させる。 ○3種類の工夫を分かりやすく区別させるために、3色の色ペンを使わせる。
20分	4 クロストーク活動を行う。 ・同じ人物同士のグループで、発表し合う。 ・各グループ一班を選び、全体の前でスピーチ原稿を発表する。	○スピーチ原稿を交流することで、自分のグループと比較して、同じ工夫を用いても様々な表現ができるということに気付かせる。
終末 5分	5 学習のまとめをする。 ・スピーチ原稿を書く時の3つの工夫を確認する。 ・単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。	○次時の自身の原稿の推敲につなげやすくするために、改めて3つの工夫を整理させる。 ○本時と次時の学習内容を関連付けるため、単元シートを用いて次時の学習内容を確認させる。

8. 各エキスパート・ジグソー<対象の生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパート・ジグソーで押さえないポイント、そのために扱う内容・活動>

○エキスパート活動では、安室奈美恵さんの人生について、英語で書かれたエキスパート資料を配布する。生徒は、スピーチ文を読み、工夫されている箇所に線を引く。そして、以下のそれぞれの工夫が、聞き手を惹きつけるスピーチ原稿の作成にどのような効果があるのかを考えさせる。

【エキスパート A】 Impactful introduction

スピーチの導入部分を聞き手の興味を引くような文章で始めることが、スピーチ全体に興味を持つことにつながることに気付く。

【エキスパート B】 Interaction with audience

スピーチの中で、聞き手への問いかけを入れることで、内容を反芻しながらスピーチを聞かせられることに気付く。

【エキスパート C】 Repetition

強調したいことを繰り返すことで強い印象を与え、聞き手を惹きつけるスピーチができることに気付く。

○ジグソー活動では、各エキスパートから持ち寄ったスピーチ原稿の工夫をもとに、スピーチ文を推敲し、より聞き手を惹きつけるスピーチ原稿になるように工夫を加えていく。

9. ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

ジグソー学習で学んだ、スピーチ原稿の作成における3種類の工夫を踏まえて、それらを取り入れながら、自分の尊敬する人についてのスピーチ原稿を推敲する。

「聞き手を惹きつける工夫」をしたスピーチ原稿を生かすために、スピーチ文を暗記し、声の大きさや間の取り方、話すスピードなど、話し手の態度に気を付けながら、一人ずつ全体の前で発表を行う。

10. グループの人数や組み方

男女混合の12グループ（4人×3グループ 3人×9グループ）

